

みしま野

あまのいわとわけじんじゃ 天石門別神社

平成19年9月22日土曜日、いつもは7月14日の夏祭りで見られる太鼓の山車が境内を練り歩いている。その日、境内の奥に佇む「奥宮」とも呼ばれる天石門別神社御鎮座千二百年記念祭が執り行われた。時ならぬ夏祭りは記念祭を盛上げるパフォーマンスなのである。以前、茨木神社の東門について拙稿を書かせて戴いた事があるが、今回は同じ境内の奥の方にひっそりと、だが威風堂々として建っている社殿・天石門別神社である。

茨木神社由緒書きに拠れば、「大同2年(807年)坂上田村麻呂が荊切の里をつくりしとき、天石門別神社が鎮座された」とあり、また延喜式にも「官幣社」として天石門別神社の名前が見られる。「茨木神社」の現在の本殿が建設されるまでは、この天石門別神社が所謂「茨木神社」の本殿であり氏神様そのものであった。織田信長の神社仏閣焼き討ち



正面から見た天石門別神社



威風堂々とした銅板葺き屋根と素木造り



妻入りの神明造り

所在地：茨木市元町 4-3
最寄駅：阪急茨木市駅下車 徒歩約 10分
JR 茨木駅下車 徒歩約 15分
茨木神社社務所にて問合わせできる。
見学は自由(団体に訪れる際には社務所に一言どうぞ)。
TEL：072-622-2346 FAX：072-624-5474

令が発布され高槻城主高山右近によって焼かれる処であったが、牛頭天皇(素盞鳴大神)を祀る社であるとしてその災厄から免れたとされており、元和8年(1622年)現在の本殿が創建されてからは、その後ろに控えて氏子の安寧を見守ってきた経緯がある。

現在の社殿は昭和49年(1974年)に建替えられた新しい社殿で、銅板葺・神明造り。屋根からは垂直に切り落とされた千木が伸び、屋根の両端に2本の鯉木が載る。一見、神明造りにも似た意匠であるが、棟持ち柱は無く、平入りとはせずに妻入りとなっており、神明造りと大社造りが混ざり合った形態の意匠となっている。建替えられる前の社殿は3つの社殿が並んで建っており、本殿が春日造り、左右の2社が流れ造りであったとされている。現存していれば全く異なる趣の境内が茨木の街を見守っていた事になる。(神保 勲)